

減少に伴って姿を消して行った。アオヤンマは、アシ、マコモ、ガマ、ショウブなどの間や立木の周囲または民家の軒先などをゆっくりと飛び回り、他の昆虫などを捕食する習性があり、特にクモ類をよく捕食する。余り大型でないオニグモなどが、その巢上にいるのを見つけると、巢の前面の空間で静止しながらチャンスをつかみ、飛び付いて捕食する。

このようなアオヤンマを久しぶりに西宮市内で目撃したので報告する。1982. 5. 24の12時、西宮市田近野町の工場敷地内にある松林中でムクゲ、ネズミモチなどの周辺を徘徊する新鮮な1個体を目撃した。この辺りには、後述の通りギンヤンマがよく見られ、マルタンヤンマの産卵が目撃された所があり、このあたりで偶然発生したのかあるいは僅かばかり発生し続けているのかもわからない。

## (2) マルタンヤンマ

マルタンヤンマは、体翅共、褐色の大型のヤンマである。特に、成熟した雌では、褐色は著しく、かつ、胸部側面の黄紋は鮮かで、水面の少し上で細かく羽ばたきながら静止しているときなど普通種でない印象を与える。筆者がトンボ採りに夢中だった1940年頃、当時の武庫郡大庄村（現在、尼崎市）の農業用溜池では、昼間の産卵と夕方の摂食飛翔がよく見られた。そして、初めてその雌を捕獲したときは、コオニヤンマのドロメン（当時、その地域ではギンヤンマなどの老熟した雌で翅色が著しく褐色になったものをドロメンと称した。）を捕えたと思って驚喜した。図鑑で調べたところ、マルタンヤンマであり、大阪付近では稀ではないが決して普通種でないとのことであった。

前置きが長くなったが、このようなマルタンヤンマを久しぶりに宝塚市内で目撃したので、その状況を報告する。少し古い記録ではあるが、1980. 8. 1の12時頃宝塚市仁川北2丁目の小仁川で産卵中の雌1頭を目撃した。小仁川は、阪急電鉄仁川駅西北にある弁天池から流出する小河川であり、途中で民家からの下水の流入があるが、仁川と合流点付近まで、鮎などの小魚も多く、ギンヤンマなどがよく見られる。産卵を目撃したのは、仁川との合流点の少し上流で、川幅が少く広くなり、流れが緩かになっている所であった。ただし、この場所もかなり汚染されており、ここで生育しているかどうかは分らない。また、その後も休日には、昼間、夕暮れ共、幾度か訪れたが、採集も目撃もできなかった。

## 摩耶山におけるヒメコブヤハズカミキリの採集例

芦 田 久

「兵庫県甲虫相資料・96」を拜見したところ、ヒメコブヤハズカミキリ *Parechthistatus*

*gibber gibber* (Bates, 1873) の摩耶山における記録は案外少なく、特に近年の記録がないようなので、筆者の採集例を報告しておく。

1 ♀ 20. VII. 1981 筆者採集・保管

ロープウェイ駅からやや離れた山頂付近の登山道沿いでピーティングによって得た。山頂付近ではコブヤハズ好みそうな状態の朽木はほとんど見つからず、また、この日は小雨が降っていたので、ピーティングを主に行っていたところ、地上約 1 m の高さにおら下がっていた枯葉つきの枯枝から上記の 1 ♀ を採集することができた。

### ヒゴヒラタエンマムシ神戸市内に産す (兵庫県甲虫相資料・111)

高橋 寿郎

ヒゴヒラタエンマムシ (*Hololepta higoniae*) は種名のごとく Higo (肥後) 産で Lewis 氏が記載された種である (Ann. Mag. Nat. Hist., 6, XV, P. 174, 1874) (同じく Lewis 氏が Higo, Konose, Yuyama 産で *H. parallela* として記載された種— I. C., 5, XIII, 1884, P. 182—も本種のシノニムである)。平べったい黒色の光沢あるきれいな種であり (体長 8 mm), 分布も日本 (本州, 九州) 以外台湾, 印度支那と広いようであるが兵庫県下では今迄全く記録が見当らなかった種である。1982年6月7日神戸市内の烏原でアカメヤナギの樹 (岡村はた博士に同定して頂いた) にピッタリとくっついているのを採集した。樹皮下性と言うことであるからもっと注意すれば案外いるのかもしれないが県下からは初めての記録と思われるので此処に報告しておきたい。このヒラタエンマムシ属 (*Hololepta*) には日本で3種知られていて兵庫県下にも3種とも記録されるのだがいずれも記録が大変少い。どれも見つけることが楽でない種のようなのである。参考までに他の2種の記録を紹介しておく。

○ オオヒラタエンマムシ (*Hololepta amurensis* Reitter, 1879). 種名のごとく Amurland 産で記載された種 (Deutsche Ent. Zeitschr. XXIII, 1879, P. 213). 日本からは Lewis 氏が "Junsai lake" (北海道) から記録された (1884)。県下からは氷上郡 [山本, 1958], 美方郡扇ノ山 [辻, 1963, 辻, 岸田, 1972] の記録があるだけの種。